

【校長室便り】

No.15

H30年6月26日(火) 土佐町小中学校 谷内宣夫



「過干渉」と「過保護」が子どもの成長を妨げてしまう理由

17年ぶりに土佐町に帰ってきて、子どもにたくましさを感じなくなっているように思います。まじめでおとなしいがプレッシャーに弱く、自分のことは自分で行う子どもが減っているように感じます。

そんな時、**立石美津子さんが書かれた『小学校に入る前に親がやってはいけない115のこと』(中経出版)**を思い出しました。

「私が毎日、しつけをしようと口が酸っぱくなるくらいに言っているのに、うちの子はどうしてこういつまでも自分のことを自分でやるようにならないのかしら?」と悩んでいるお母さん! その原因は、もしかしたら

お母さんにあるのかもしれませんが。と冒頭に書かれていて、過保護がNGな理由について書いていることを紹介します。

■親の過保護と過干渉はよくセットになる!



保育園に行く時刻が迫っているのに、子どもがおもちゃを片付けない。

「早く片付けなさい! もう出かける時間よ!」「さっさとしなさい! 何度言ったらわかるの!」ところが注意は左耳から右耳へ抜けている、全く片付ける気配なし……。



なぜ、子どもがこんな態度をとると思いますか?

子どもは自分がやらなければ親がやってくれと、ちゃんとわかっています。だから、わざとやらないのです。それで、「いつも、こうなんだから!」と文句タラタラ言いながらお母さんが片付け始めると、子どもの計画通りに事が進んだこととなります。このとき、「片付けなさい」と言っても手を出さなければ、「過干渉」にはなりません。でも、親が片付けてしまったことが過保護、そして子どもへの指示は結果的に過干渉になってしまったのです。過保護と過干渉はとっても仲良し!



セットになりやすいのです。同じような例はたくさんあります。

(1) 子どもが小学校に登校した後、忘れ物をしていることに気付いて慌てて学校に届けるママ(電話で「●●を忘れたき持ってきて!」

と頼まれ届けてあげる優しい家族)



(2) 子どもが本を投げたとき、「どうして本を投げるの、

ダメでしょ!」と叱りながらその本を拾うママ



(3) 子どもが靴を揃えないことを「なんで揃えないの!

と怒りながら、その靴を揃えるママ



(4) 目覚まし時計をセットして起きることを教えず、学生になっても

「早く起きなさい」と親が起こすママ、社会人になっても独り暮らしをしなくても、モーニングコールをするママ



(5) 学校に遅刻しそうだから車に乗せて登校させる家族、

歩いて通学するのがかわいそうだから車で送っている家族



(6) 学校にいる間に雨が降ってきたので傘を届ける家族

こうやって見ると、過干渉と過保護のイメージがつくのでは? 子どものために良かれと思って行っていることが、実は子どものためにならないということがあります。子どもの成長には『至れり尽くせり』はダメ!

■過保護のせいで子どもの成長が止まる



過干渉な親(家族)は、とりあえず口やかましく注意します。そして、子どもが困らないように先回りして手を出します。これが過保護です。例えば、「時間がない」「散らかっているから私が片付けた方が早い」「寝坊して遅刻したら大変」「忘れ物をして子どもが可哀想」などと考えていま

せんか? そもそも、この考え方がNGなのです。



それはなぜか? みなさんは、「助長」という言葉をご存知でしょうか?

助長は、「間違った薬選びをかえって健康を損ねる」の「損ねる」代わりに、「間違った薬選びをかえって健康を助長する」などと、悪い意味で使

います。この助長の由来は、苗を早く生長させようと思った宋の人が苗を

引っ張って枯らしてしまった、という孟子の故事からきています。つま

り、「不必要な力添えをして、かえって害すること」。苗の生長を助けると

いうことから、助長という言葉が生まれたのです。過保護も同じ。余計な

ことをすると子どもの成長を妨げてしまいます。だから、絶対にやっては

いけないのです。親が良かれと思って過干渉に口を出す。または、子ども

が困らないように先回りして過保護に手を出す。これでは、なかなか自分

でできるようにはありません。宋の助長してしまった人のように、かえっ

て子どもの芽を摘むことにならないように気を付けていきませんか?

土佐町小中学校の子どもたちを自立・自律させて、一人でもたくましく生きていける力をつけさせるためには、不自由な環境で、自分で対応策を考え実行していける力を育てることだと考えます。

皆さんのご家庭はどうでしょうか? 【引用文献著者】立石美津子